第 502 回つくば分子生命科学セミナー

TSUKUBA MOLECULAR LIFE SCIENCE SEMINAR

演題：新興ウイルス感染症に対するワクチン開発

演者：安田 二朗 先生（長崎大学 高度感染症研究センター・教授）

日時：2026 年 7 月 29 日（水） 17:00-18:30

会場：健康医科学イノベーション棟 8 階講堂

要旨：COVID-19 パンデミック発生時のワクチン開発の遅れを教訓として、日本政府は感染症有事に国策としてワクチン開発を迅速に推進するために平時から研究開発を主導する先進的研究開発戦略センター（SCARDA）を 2022 年 3 月に設置しました。SCARDA の下、現在「ワクチン開発のための世界トップレベル研究開発拠点の形成事業」が実施されており、長崎大学はシナジー拠点の一つとして同事業に参画しています。

COVID-19 の出現以降も次々と新興感染症の流行が世界各地で発生しており、新規の感染症（Disease X）の出現も危惧される状況です。わが国においても、致命率 27%といわれる新興感染症である重症熱性血小板減少症候群（SFTS）が問題となっています。

SFTS は、フェヌイウイルス科バンダウイルス属 SFTS ウイルス（種名 Bandavirus dabieense）の感染によって引き起こされるマダニ媒介性のウイルス感染症です。2011 年に中国で初めて患者が報告され、その後、日本でも 2013 年以降毎年症例が報告されています。2021 年以降は国内で毎年 100 名以上の報告があり、すでに累積報告数は 1,200 例を超えています。また、韓国、台湾などでも発生が確認されており、ベトナム、パキスタン、タイでもマダニや動物から SFTS ウイルスが検出されている状況です。SFTS に対するワクチンは未だに承認されたものがなく、現在、様々なモダリティのワクチンの開発が進められています。我々は、以前に SFTS ウイルスの非構造タンパク質である NSs が病態発現に重要な役割を果たしていることを報告していますが、このことは NSs を欠損させたウイルスが弱毒生ワクチンの候補となり得ることを示唆します。そこで、リバースジェネティクス法により人工的に NSs を欠損させたウイルス（SFTSV ΔNSs）を作製して、現在、ワクチンとしての評価を進めています。

本セミナーでは、新興ウイルス感染症に関する最近の話題と我々が現在開発中の SFTS ワクチンについて紹介する予定です。

参考文献

1. Yoshikawa et al., ***J Infect Dis***, jiag158, 2026
2. Yoshikawa et al., ***Virus Res***, 363, 199680, 2026
3. Yoshikawa et al., ***PLoS Negl Trop Dis***, 19, e0013695, 2025
4. Kubo et al., ***Trop Med Health***, 53, 127, 2025
5. Yoshikawa et al., ***J Biol Chem***, 299, 104819, 2023
6. Yoshikawa et al., ***J Virol,*** 93, e02226-18, 2019

本セミナーは、医学学位プログラム（博士）「医学セミナー」（担当：専攻各教員）、及び、フロンティア医科学学位プログラム（修士）「医科学セミナーII」（担当：入江賢児）の関連セミナーに相当します。

連絡先： 筑波大学医学医療系 小林 麻己人（内線 8454、makobayash@md.tsukuba.ac.jp）

【筑波分子医学協会（TSMM）主催】 HP：http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/tsmm/

協会代表：筑波大学医学医療系 森川 一也 TSMM セミナー担当：筑波大学医学医療系 水野グループ